

# Bonjour

ボンジュール!!

2017年  
5月25日号

Vol.357



## 気付いたら、最高値更新！？

### ● 最高値を更新！世界公益株式

NY ダウやナスダック指数が最高値を更新しているなか、実は高値を更新したセクターがあります！世界公益株式は **2007年12月(約9年5ヵ月ぶり)の高値を更新**しました。米国で物価が上昇、政策金利の引き上げが開始され、世界公益株式が上昇トレンドに入った2004年頃の状況と似ています。

### ● 物価上昇は投資の好機！?

なぜインフレが公益企業にプラスかという、3つ理由があります。①**電力料金などの値上げ**、②**利益の増加**、③**配当の増加**。電力料金などの公共料金は、物価上昇や投資回収コストの増加を加味して値上げをすることができ、配当方針のなかで配当性向(配当/利益)や物価の上昇を加味した増配などの目標を掲げています。このため、**全体の物価が上昇する局面では半年ほど遅行して電力料金などは上昇し、企業利益が増加し、増配が行われる傾向があると言われて**います。過去を振り返っても、米国の物価上昇率が3%を超えると世界公益株式のパフォーマンスは世界株式を上回る傾向が見られました。

### ● 世界経済はどうなる？

今後世界経済は緩やかであるがインフレサイクルに突入する可能性が高いと考えられます。米

国、ユーロ圏の物価上昇率(インフレ率)は上昇傾向が見られ始めています。この背景には、景気回復、金融政策正常化に向けた動きや、財政政策拡大などの世界的な政策動向に変化があり今後の動向が注目されます。特に米国は深刻な債務問題を抱えており、米連邦準備制度理事会(FRB)は今後の金融引き締め局面において物価上昇率2%超を許容することも視野に入れざるを得ないと思われれます。その為、もしかしたら、将来物価上昇率が3%台に乗ることも視野に入れる必要があるかもしれません。加えて、FRBのイエレン議長が景気の過熱に対する慎重発言を行っているのは物価上昇率をある程度高めに維持したいからだと推測されます。となると、**今後注目すべきは世界公益株式**とも考えられます。

### ■世界公益株式のパフォーマンス

(日次、期間:1994年12月30日~2017年5月23日、ドルベース)



出所:トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成。

※株価指数はドルベース、配当込み

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。